【歌詞】

「室咲京人形」は、フランス国会図書館蔵の正本（しょうほん）を底本としております。「丹前」と「鎗踊」につきましては、本日演奏致します歌詞を上段に、正本にある歌詞を下段に載せております。後ろに現行曲「水仙丹前」の歌詞も掲載致しました。そちらも併せてご参照ください。

「丹前」

〽水仙の花の姿や若衆ぶり　女子（おなご）なりけり室の梅　水仙の花の姿や若衆ぶり　女子なりけり室の梅　あら面白のけしきかな　山も色めく花紅葉（もみじ）ちらちら袖に　袖にちらちら散る紅葉　情もあらば　一寸一（ちょっとひ）と筆かき紅葉　参らせ候べく候かしく　もしやお心お心　こころ変わらばわしゃ薄紅葉　実（げ）に恋は曲者

男出立ちのいたずら風に　しゃんしゃんしゃんと　こぎりめに　帯引き締めて　ととんとどっこい　ととんとどっこい　ととんととととんと　殿様　殿様　殿様ごとしょ　長い刀に長脇差を　まあ十文字に　ぼんじゃりぼんじゃりと　さしてしこなし廓（さと）通い　しおらしや

「丹前」

〽水仙の花の姿や若衆振り　女子なりけり室の梅　水仙の花の姿や若衆振り　女子なりけり室の梅　〽あら面白の景色かな　山も色めく花紅葉　ちらちら袖に　袖にちらちら散る紅葉　情もあらば　ちょと一筆　〽書き紅葉　まいらせ候べく　候かしく　〽もしやお心　お心　心変わらば　わしゃ薄紅葉　げに恋は曲者　男出立ちのいたづら風にしゃんしゃんしゃんと　小切りめに帯引き締めて　ととんとどっこい　ととんとどっこい　どっこい　ととんととととんと　殿さま殿さまごとしょ　長い刀に長脇差をまあ十文字に　ぼんじゃりぼんじゃりと

君に逢いたくば　毎日そうして通わんせ　さりとはええどうじゃいな　毎日そうして通わんせ　さりとはええどうじゃいな　忘るる暇もないわいな

〽恋はさまざまあるが中にもさ　わけて恋路は　逢う恋待つ恋忍ぶ恋　我が恋は必ず今宵は合点(がってん)か　合点合点そなたも合点　我らも合点　合図の手管(てくだ)飲み込んだ　えいえいえいやっと手を打ち　勇み勇んでくるわ大寄せ

「鎗踊」

〽振れ振れ振り込めさ　振り込めさ　お先を揃えてこれはとさ　ありゃんりゃりゃ　こりゃんりゃりゃ　勇んでさ　進んでさ　行列揃えてぼっ立てろ

行くもやれさて通うも忍ぶの乱れ　風が吹くやら恋風が差しやこなして廓通い　しおらしや

〽君に逢いたくば　〽毎日そうして通わんせ〽さりとはええどうじゃいなどうじゃいな　忘るる暇もないわいな

〽恋は様々ある中にさ　分けて恋路は　逢う恋　待つ恋　忍ぶ恋　我が恋も必ず今宵は合点か　〽合点合点　そなたも合点　我らも合点　合図の手管か　呑み込んだ　えいえいえいやっとも手を打ち　勇み勇んで　廓大寄せ

「鎗踊」

〽振れ振れ　振りこめさ　振りこめさ　〽お先を払うて　これはとさ　ありゃんりゃやこりゃんりゃや　〽勇んでさ　〽進んでさ　行列揃えてぼっ立てろ

〽行くもやれさて　通うも忍ぶの乱れ　風

連れて連れて　さっさ　おちよものさっさ　我が里へ
花となが めん　えいやらさらさ　えいやらさらさ　とと
んととんとこの身を　投げかけ揺りかけ　しととんとん
とんしととん　しととんとんとんしととん　枝垂れ柳の
ほっそりすわり　黒繻子の帯　きりりとしゃんと　きり
りとしゃんと　結び締めたよ　やれさてのう　花は九重

が吹くやら恋風が〳〵連れて連れて さっさ おちよもの さっさ 我が里の花となが めん〳〵えいやらさえいやらさ〳〵ととん ととんとこの身を〳〵投げかけ揺りかけ しととんとんとんしとん しととんとんとんと んしとん 枝垂れ柳のほっそりすうわり 黒繻子の帯 黒繻子の帯 きりりとしゃん と きりりとしゃんと 結び締めたる やれ さてのう 花は九重

「道行」

〳〵あれ御覧ぜよ東路に〳〵今日思い立つ旅衣 花の都を立ち出でて 日も行く先の空遠く〳〵裾はちらちら ほらほら裾は 紅裏小袖 ぞべらぞべらと 伊達〳〵らしや ゆかしさよ

〳〵磯に鳴く千鳥〳〵明けの別れの つらさを告げて ちりちりちりや ちりちり ちりちりちりや ちりちりちり〳〵散り飛ぶは 散り飛ぶは 番離れぬ川千鳥 しおらしや

（〔笠の段〕）

〽見渡せば 月の鴨川 〽流れも清し 面白や 新更科の月も 〽一入 〽ひと月の 猿沢の月よの 〽嵯峨の月よの なおなお広沢の月 花山の月 石山の月 〽姨 〽捨ての月 〽今宵昆陽野の月は〽松島の月 須磨や明石の 月の名所や 寄せ来る波の 〽宮島の月 〽更科の月 景色は 〽尽きじ 不破の月 来て三井寺の月のよい夜の

〽東に名高き武蔵野の月 〽四方に 〽照らすや月の暈 来て見よかし 紅葉笠

「猩々」（「猩々の乱れ」）

〽月の紋日に君待遊ぶ 下戸も上戸も三つ盃で 重ね重ねし八重や九重

〽老いせぬや 老いせぬや 薬の名をも菊の水 また君に逢うぞ嬉しき 〽恋と聞く 恋と聞く なお聞くにつけても 楽しみの 一夜さ二夜さ さらに身には厭わじや ことわりや恋は実に まれ人に勧めみて 月花と楽しまん ざざんざと唄いかけて 波の鼓どうと打ち

〽声澄み渡る浦風の 秋の調べや残るらん

〽ありがたや 御身心素直なるにより この壺に泉をたたえ ただ今返し授くるなり 〽よも尽きじ よも尽きじ 万代までの竹の葉の酒 酌めども尽きず 飲めども変わらぬ 秋の夜の盃 影も傾く 入江に枯れ立つ 〽尽きせぬ宿こそめでたけれ

参考

「水仙丹前」歌詞

〽水仙の花の姿や若衆ぶり　女子(おなご)なりけり室の梅　水仙の花の姿や若衆ぶり　女子なりけり室の梅
あら面白のけしきかな　山も色めく花紅葉(もみじ)ちらちら袖に　袖にちらちら散る紅葉　情もあらば　一寸(ちょっと)
一(ひ)と筆かき紅葉　参らせ候べく候かしく　もしやお心お心　こころ変わらばわしゃ薄紅葉　実(げ)に恋は
曲者
男出立ちのいたずら風に　しゃんしゃんしゃんと　こぎりめに　帯引き締めて　ととんとどっこい
ととんと　どっこい　ととんととととんと　殿様　殿様　殿様ごとしょ　長い刀に長脇差を　まあ十文
字に　ぼんじゃりぼんじゃりと　さしてしこなし廓(さと)通い　しおらしや
君に逢いたくば　毎日そうして通わんせ　さりとはええどうじゃいな　毎日そうして通わんせ　さり
とはええどうじゃいな　忘るる暇もないわいな
〽振れ振れ振り込めさ　振り込めさ　お先を揃えてこれはとさ　ありゃんりゃりゃ　こりゃんりゃ
りゃ　勇んでさ　進んでさ　行列揃えてぼっ立てろ
行くもやれさて通うも忍ぶの乱れ　風が吹くやら恋風が　連れて連れて　さっさ　おちよものさっさ
我が里へ　花となが めん　えいやらさらさ　えいやらさらさ　ととんととんとこの身を　投げかけ揺
りかけ　しととんとんとんしととん　しととんとんとんとんしととん　枝垂れ柳のほっそりすわり　黒繻
子の帯　きりりとしゃんと　きりりとしゃんと　結び締めたよ　やれさてのう　花は九重
〽恋はさまざまあるが中にもさ　わけて恋路は　逢う恋待つ恋忍ぶ恋　我が恋は必ず今宵は合点(がってん)か
合点合点そなたも合点　我らも合点　合図の手管(てくだ)飲み込んだ　えいえいえいやっと手を打ち　勇み勇
んでくるわ大寄せ